

【る・る・るの法則】～校長通信 No. 6～

前号でも書きましたが、学校生活が日常の生活様式を取り戻しつつある一方で、これまでの生活様式を変えなければいけない現実があります。とてもつらい現実ではありますが、ここは気持ち新たに学校生活を送らなければいけません。

さて、学校が再開されて1ヶ月が経ち、学習も部活動もようやくペースをつかめてきたのではないのでしょうか？

ただ、一つ気になることがあります。

これまで、新型コロナウイルス感染症予防の対応や協力をしてくれたことは本当に感謝しています。

しかし、皆さんの学校生活を見ていると、悪い意味で“慣れる”行動が見受けられます。

あれだけ、新型コロナウイルス感染症予防に注意を払っていたにも係らず、緊急事態宣言が解除されて安心したのか、今の生活に悪い意味で“慣れて”しまったのか、予防する行動に“飽きている”と感じられることが散見されます。

さらに、“飽きてしまった”あとには、感染症予防のルールやマナーを、やがて“サボる”ようになってきます。

つまり、“慣れる・飽きる・サボる”・・・

これを【る・る・るの法則】と言います。

例えば、通学途中の電車やバスの中で、「マスクを着用せずに大きな声で友だちとしゃべっている。」と聞こえてくることがあります。もちろん、すべての人がこのような行動を取っているわけではありませんが、これまでの緊張感が薄れているように感じます。

また、部活動では「密を避ける」ことや「共用する用具の消毒」を、再開時には気をつけていましたが、最近はややルーズになっているようにも感じています。

確かに兵庫県では、新型コロナウイルス感染症が“収束”に向かっているかもしれませんが、決して“終息”したわけではありません。

友だちと楽しく過ごすことも学校の大きな魅力の一つですが、「T(時)・P(場所)・O(場合)」を考えて行動して欲しいと思っています。

【る・る・るの法則】は、感染所予防だけではなく、勉強・部活動等々の学校生活においても、よく見受けられます。

“慣れる・飽きる・サボる”の兆候が見受けられた時は、要注意です！

